学生新聞

放送大学
埼玉学習センター
埼玉CSC交流会
学生新聞
編集委員会
〒330-0853
さいたま市大宮区
錦町682-2
TEL048-650-2611

「ガラス工芸体験・特別講習会」パートⅡ
ステンドグラス作りを楽しむ
華やかなランプ・シェードを作成

ステンドグラス作りを楽しむイベントとして、「ガラス工芸体験・特別講習会」が放送大学埼玉学習センター主催で行われた。パートⅠの「入門編」は平面作品として6月に実施されたが、立体作品を作成する「中級編」が10月28日と11月4日に埼玉学習センターの8階実験室で行われた。「入門編」「中級編」とも、講師はステンドグラス作家の増井奎氏。「中級編」の参加者は同窓会の鈴木さとみさん、福盛田恵子さん、竹内久子さん、尾島孝一さんの4名だ。

「入門編」で作成された色鮮やかなマンボウや鯨などの作品はフェスタでも展示されたが、パートⅡの「中級編」では華やかなランプ・シェードを作成した。

ブリタニカ国際大百科事典によれば、ガラスは文明発祥地のオリエントで最初に作られ、宝石や貴金属と同様に珍重されたとある。エジプト最古のガラス製品はビーズ玉で、紀元前1500年以前にまで遡るとのことだ。また、バビロニアで発見されたガラス棒は紀元前2100年代の物と推定されている。ガラスの器が作られるようになったのは紀元前1500年頃で、エジプトのナイル川東岸の都市テル・エル・アマルナにはガラス工房があり、紀元前後には、アレクサンドリアをはじめとした地中海東岸の諸都市が製造の中心地となって、吹きガラス法や型押し法などの技法が発達したと伝えられている。

一方、日本には中国との交易により、弥生時代に北部九州などにガラス製小玉や璧、管玉などがもたらされたと推定されている。古墳時代には小規模なガラス製造が始められた様子で、小玉、勾玉、腕輪などが出現している。江戸時代にはガラスの製法がオランダから長崎へと伝わり、ビードロやぎやまんなどと呼んで珍重された。

ステンドグラスはガラスに金属酸化物を混入する事で着色し、その着色ガラスの小片を結合することで絵や模様を表現する技法である。キリスト教の教会や西洋館の窓の装飾に多く用いられている。日本で最も大規模なステンドグラスは、国会議事堂に設置されている。「ガラス工芸体験」での作業はランプ・シェードに使用する色ガラスの選択から始まる。色鮮やかな色ガラスは色、デザイン、品質なども多種多様で価格もいろいろある。同じランプ・シェードでもガラスの色やデザインによって全く雰囲気が異なるので、ガラス選びは大切な作業になるという。

一番難しい作業は、選んだ色ガラスをデザインに合わせてカットする事だ。先端がダイヤモンドのガラス・カッターでデザイン線に傷をつけて行く。カッターの角度や力の加減が判らなくて途中でガラスが割れてしまったり、逆になかなか割れなかったりするので、慣れるまでは難しそうだ。

参加者は講師と助手の指導を受けてガラスをカットし、ハンダゴテで結合しながら仕上げていった。

苦労の甲斐あって、最後はスッキリしたデザインや幻想的な色合いの様々なランプ・シェードが完成し、参加者は満足そうに見入っていた。（冬木）

新年の抱負
埼玉学習センター所長　渋谷治美

CSCに参加されている学生さん、同窓会員の皆様、明けましておめでとうございます。

「平成」の元号を使うのもあとわずかとなりました。若い頃は元号を使うことに抵抗感がありましたが、歳とともにそれも薄らぎました。新しい元号はどんな漢字の組み合わせなのでしょうか。

私はこの三月で所長を退任します。丸四年間の勤めでしたが、皆様とのさまざまな交流のお蔭で、たいへん豊かな人生体験の時期を過ごすことができました。紙面をお借りして心から御礼申し上げます。

私の今年の抱負を披瀝しますと、五年前に前職（埼玉大学教員）を辞めるとき、同僚と最後のゼミ生たちと駆けつけてくれた多くの私のゼミの卒業生たちを前にして、これまでの研究を近々三冊の本に纏めます、と宣言したきり、それを果しておりません。そこで、今年はその手付けとして、まずはカント研究を纏めたいと思っています。その次は「総合人間学」、最後に親鸞・道元論を一冊にしたい、と計画しています。鬼が十年後まで私のことを笑っている気がします。

この歳になって思いますのは、人生の公的場面から退場するこの時期になって、まだなすべき仕事が残っていたこと、その仕事に取り組む情熱と使命感と能力が辛うじて残っていることの、二つの事実が実にありがたい、ということです。私は骨の髄からの無神論者ですが、この幸運を何やら神に感謝したいようなむずがゆい気持ちでおります。

私ごとばかり述べてきましたが、最後に、本年が皆様にとりましてどうか実りある一年となりますよう、心から祈念いたします。四月以降もまた何かの機会にお目に掛かりましょう。

「ウィーン・ペータース教会合唱演奏旅行記」
Wienerwald Musikfreunde　加藤　裕

「美の時空を訪ねる旅」をテーマに9月21日から27日までザルツブルク、ウィーン、パリ計5泊7日を旅した。音楽家の世界に深く共感し、作曲者が表そうとした作品世界を音で表現してみようとするのが目的である。そのハイライトがウィーンのペータース教会での合唱演奏の実践体験である。この旅を導いてくださったのは埼玉SC・神奈川SC客員教授の茂木一衛先生で、合唱団の代表として練習、本番の指揮、現地解説でご指導をいただくとともに奥様の恭子先生には鍵盤伴奏でご協力をいただいた。

合唱団はWienerwald Musikfreundeの団員をはじめ、神奈川、東京文京、東京多摩の各SCの学生等総勢40名。団体の名称は茂木先生が「Holdekunstverein Moteki（優しい芸術の会）」と命名。演奏曲目はシューベルト作曲『ドイツ・ミサ曲』とモーツァルト作曲『アヴェ・ヴェルム・コルプス』の4部合唱２曲。

22日はモーツアルトの生家のあるザルツブルク中心街とシューベルトが旅し愛しかつモーツァルトの母の生家のあるザルツカンマーグートを訪ね、演奏会本番に向けて両作曲家の世界を深く感じとる有意義な一日となった。

23日はウィーンに移動していよいよ演奏本番の日。ペータース教会の入口には当日の無料演奏会の案内が「HOLDEKUNSTVEREIN MOTEKI, JAPAN」と掲示されていた。15時に演奏会はバッハのパイプオルガン演奏で始まり、その後約40分間私たちは祭壇上で合唱演奏、ヘンデルのパイプオルガンで演奏会が終了。絢爛豪華な装飾美と経験したことのない残響空間に圧倒される中で演奏した『ドイツ・ミサ曲』は優しく深く美しく、また『アヴェ・ヴェルム・コルプス』は天国的な美しさに溢れ、心の底まで作品の深さが響いてきた。ウィーンで最も歴史ある教会で演奏できたことは私の人生の中で貴重な音楽芸術の実践体験となった。この２曲を取り上げ私たちに音楽芸術の深い感動体験を与えてくださった茂木先生に心から感謝申し上げたい。教会内はほぼ満席で、地元の人をはじめ世界中からの来場者ではないかと想像する。私たちは茂木先生の厳しくも愛情溢れる指導を得て少しでも「優しい芸術」をこのペータース教会で表現できたのではないかと思っている。

24日はウィーンの中央墓地でシューベルトやベートーヴェンの墓に赴いた後、私はモーツァルトの結婚式と葬儀が行われたシュテファン大聖堂、モーツァルト、シューベルト等の住居跡を巡り往時を偲んだ。さらにウィーン最古のレストランを訪ね店内の壁のシューベルト、モーツァルト、ベートーヴェン等の直筆サインをこの目で確認し胸が高鳴った。

25～26日はパリに移り私は「ノートルダム大聖堂」のほかデカルトが眠る「サン・ジェルマン・デ・プレ教会」、サルトルらが執筆場所にしていたカフェで哲学の匂いを感じるとともに、「オランジュリー美術館」「オルセー美術館」で印象派を堪能した後、27日無事帰国。今回の旅行ではウィーン延泊組、パリ延泊組に分かれたがそれぞれが「美の時空を訪ねる旅」を実践したものと確信する。

祭壇前

事務室からのお知らせ

単位認定試験
1月24日から開始

1月24日（木）～2月2日（土）まで単位認定試験が行われます。試験日時等をご確認のうえ、試験時間に遅れることのないよう受験してください。なお、2月1日（金）は臨時閉所となりますのでご注意願います。

2019年度第1学期学生を募集中

2019年度4月入学生を募集しています。出願の受付は、第1回が2月28日（木）、第2回が3月17日（日）までです。皆さんも放送大学に興味・関心のある方を、是非ご紹介ください。紹介された方が入学（再入学を除く）した場合には、薄謝を進呈いたします。

オープン・キャンパスと学習相談を開催

日時＝19年1月20日（日）及び2月17日（日）
両日とも14時～16時
内容＝概要説明、履修案内、卒業生の体験談、スクーリング見学（1月20日のみ）、図書室等見学、個別相談等
註＝個別相談は随時受け付け。要予約

科目登録の手続き
2月13日から28日まで

2019年2月13日（水）から第1学期の科目登録申請が始まります。登録申請は①郵送、又は②WEB（システムWAKABA）でできます。〆切りは、①郵送の場合2月27日（水）〈大学本部必着〉、②システムWAKABAの場合は、2月28日（木）24時までです。

なお、システムWAKABAでの登録申請の場合は、期間内ならば申請内容を変更できますが、全ての科目の登録を削除することはできません。

学生手帳

「打楽器演奏の魅力」笹原誠二

オーケストラ演奏会でのバイオリン、ピアノなどのソロ演奏は、その研ぎ澄まされた演技に知らず知らずのうちに聴きいってしまう程の魅力を覚えてしまう事が多いが、近ごろ演奏会に通ううちに、オーケストラでの打楽器の一瞬の効果的な音の発生に今までにない感激を受けるようになった。

一流の打楽器奏者が一回のコンサート中に担当する打楽器の種類は40種余りを超えると言われている。演奏会での主たる打楽器としては、シンバル、大太鼓、ティンパニーなどが考えられるが、これだけ多種多様な演奏技術を要する打楽器を間違いなく演奏するには、その練習のために数多くの楽器を備え付け・維持するだけでも大変だろう。

日本一のシンバル奏者といわれる日本フィルの福島氏は、保有するシンバルだけでも5組あまり、それを時々はその組み合わせを変えて、より効果的な演奏を心掛けているという。

私の好きなビゼーのカルメン組曲の「闘牛士」におけるシンバル全開の演奏はその迫力に圧倒されるし、ヨハン・シュトラウスの「ラデツキー行進曲」の演奏を、シンバルによって軽やかなリズムで効果的に表現することもできる。

オーケストラ演奏の際、他の管弦楽器の演奏と一体となって寸分の狂いもなく、シンバルや大太鼓の大音響を一瞬のうちに表現し、演奏全体をタイミングよく盛り上げる打楽器の魅力とその絶妙の技術に、私はハラハラドキドキしながらその演奏に聴き入っている。

生涯学習奨励賞 金剛賞・金賞受賞者 アンケート

―生涯学習奨励賞金剛賞・金賞を受賞された３人の方にアンケートをお願いし、回答を頂いた。（表記はアイウエオ順）

Q放送大学に入学したきっかけは・・・

倉持幸子氏（金剛賞）＝大学で学びたいという永年の夢の実現

白鳥　誠氏（金剛賞）＝50代で会社の管理職として外部の方々と接する機会が増える中、自らの教養の不足を感じて放送大学に入りました。

瀧澤千太郎氏（金賞）＝社会人になってからも知識や多種の情報が必要と思いました。また、いつでも、どこでも自分に合った学習ができると思いました。

Q一番面白かった講義

倉持＝いずれも興味・関心が持て、甲乙つけがたいが、文系人間を自認していたので、苦手意識のあった「自然と環境」を後回しにした。結果的にノーベル賞受賞対象のiPs細胞、オートファジー、免疫療法等、最新の科学知識を学べた事が良かった。

白鳥＝「日本の自然」。放送大学教授の「濱田隆士」と客員教授であった「中村和郎」先生の科目がグローバルな視点から、日本列島の置かれている環境を取り上げ、自然に対する見方と地球環境問題に関する興味が大きくなった。

瀧澤＝「心と体のリフレッシュ健康体操」。ピアノの生伴奏や民謡などの身近なミュージックに合わせて、踊りや体操ができ、簡単な道具等を利用することで、心身共に壮快感が得られました。また、他の受講者とも休憩時間などで懇談することもできました。

Q記憶に残っている事

倉持＝＊面接授業の「日本列島の成り立ちとジオパーク」で、現地講義を受けたバス旅行の１日。

＊日本のノーベル賞受賞となったiPs細胞、オートファジー、免疫療法、クラゲの蛍光タンパク質の発見等を実際に学べた事がとても良かった。

＊サークルおおみやのサークル活動を通じて、多くの仲間と交流し、数々の知識や体験を得た事は楽しかった。

白鳥＝２０１７年３月、上野「奏楽堂」で開催された放送大学主催の「ベートーベン第九合唱」に参加できたことであります。２年間の練習の成果により、会場の皆様とオーケストラ、合唱の全員が一つのハーモニーとなったことは一生の宝物です。

瀧澤＝「実験生物学Ⅰ」でマウスの解剖を行い、その内臓を観たり、ウニの授精で細胞が分裂するのを直に観察でき、大変感激しました。

埼玉県以外に北海道、奈良県等の学習センター等でも面接授業を受講し、学生がいろいろな地域から来ていることが印象的でした。

Q在学生へのアドバイス

倉持＝目標を定めて、地道に努力を続ける事だと思います。「継続は力なり」「成せば成る」。

白鳥＝放送大学はとかく孤独な勉強となりがちですが、自分に興味のあるサークルとか趣味の世界を学習センターの触れ合いの中で見つけると、より充実した学生ライフを送ることができると思います。

瀧澤＝試験勉強も大変でしょうが、楽しみながら学んで下さい。また、ホームページの自己学習サイトは大変役に立ちますので、ぜひ有効利用してください。

Q今後の目標

倉持＝健康長寿を目指して、「きょういく、きょうよう、ちょきん」をモットーに、日々楽しくウォーキングしています。今は３年がかりの「中山道６９次ウォーク」に挑戦中です。

白鳥＝選科履修生として、日本の古典文学を少し勉強してみたい。また、「高齢者施設」へのギター伴奏などで慰問活動を継続していきたい。

瀧澤＝今期から「自然と環境コース」に再入学していますが、コース以外の面接授業も受講していきたいと思います。

「ドイツ研修旅行　滞在記　前編」

飯田宗徳

11月から12月にかけて「海外個人研修・ミュンヘンとベルリン――ドイツの科学と文化の神髄――」と銘打って、海外研修旅行が企画実行されました。立案は、海外体験の豊かな渋谷所長と客員教授の永澤先生の２人です。定員８人で呼びかけたところ、最終的に、学生とその家族を合わせて17人の参加者となりました。大成果を得て、全員無事に帰国しました。その成果の一端を、若手の参加者の一人である飯田宗徳さんに２回に亘って報告して頂きます。

搭乗機は、すでに安定飛行に入っている。幾つか読書灯の明かりはあるものの、暗くなった機内にはエンジン音だけが響いている。

９日前に出発したときには、今回の研修旅行でこれほど多くの経験を得られるとは想像していなかった。時間とともに忘れてしまわないよう、ここに記録しておきたい。

2018年11月29日。東京・羽田。

参加者19名が集まる。荷物の預け入れ等を行い、搭乗ゲートに向かう。定刻通り12時45分出発。往路の座席は、ばらばらだったように記憶している。離陸した機体は、参加者の期待とともに上昇し、雲の中に入る。窓の外の街は、数分前までは見えていたはずなのに、既に懐かしい。

同日。2018年11月29日。ドイツ・ミュンヘン。

搭乗機は、ほぼ予定通り16時45分、ミュンヘン空港に着陸した。入国審査で、滞在の目的だけではなく、宿泊先や所持金まで問われたことが印象に残っている。

ミュンヘン空港から、バスでミュンヘン中央駅に向かい、地下鉄を乗り継ぎ、ホテルに向かう。ときどき渋谷先生にドイツ語で通訳していただき、なんとか乗車券を購入し、無事、宿泊先のホテルへ到着した。

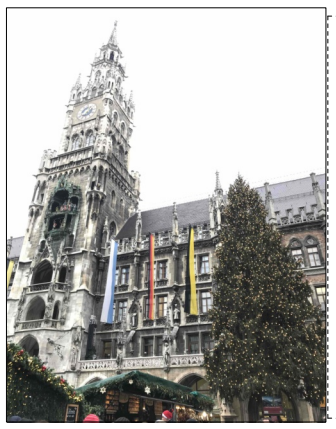
地元のレストラン

夜、レストランを探しに、一行で町へ繰り出した。地元のお店に入る。日本を出発して半日以上経過していた。現地での初めての食事、特にビールの味は格別深かった。

2018年11月30日ドイツ・ミュンヘン

滞在２日目。

午前中、ドイツ博物館へ。博物館の展示を堪能するには、一日でも足らないほどだ。


市庁舎

入場券の購入時、高原先生が、放送大学の学生証を提示して交渉し、学生料金でよいとのことになった。年齢別のディスカウントもあり、入場料は破格に安くなった。14時頃、市庁舎の地下レストランにて昼食。ドイツでは、昼食がメインの食事であるという文化を知る。

夜、バイエルン州立歌劇場でバレー『不思議の国のアリス』を観る。深層心理の描写が多い作品だった。コートをクロークに預ける際にチップを渡すことや、幕間にカウンターでワインを頼むことなど、未経験の文化を体験した。

バイエルン州立歌劇場

2018年12月1日ドイツ・ミュンヘン/バンベルク

滞在３日目

午前中、旧絵画館へ向かう。作品数が多く、そのスケールは圧巻だった。館内では、学生へ講義しているグループがいた。

午後、ミュンヘンよりICEでバンベルクへ向かう。ダブルブッキングのため席がないことが発覚する。途中駅で降車した人の席に座り、やっとの思いで、バンベルクの駅に着く。

夜、バンベルク交響楽団の定期公演を鑑賞する。最前列の席は指揮台との距離が近く圧倒される。ふと、楽団に数人の日本人らしき人を見かける。異国の地で頑張る日本人を応援したくなった。

ところが、宿に帰ろうとするとトラブルが発生した。タクシーがまったくない。他の観客は、皆、地元の人なのであろう。自家用車で帰っていく。

徐々に片付けが進み、人がいなくなったホールの入り口に、我々の一行だけが、心細くタクシーを待っていた。

俳句（つみ草）

兼題　「日向ぼこ」

蒼空をひとり占めして木守柿　安代
稚の手の深きくぼみや冬ぬくし　とく江
千早振る神の舟こぐ日向ぼこ　功
つゆ草の種は風鐸秋の霜　光娥
指揮刀の房は漆黒冬館　十詩
ゴジラゐる青春の街時雨けり　明美
新駅の名はカタカナや年暮るる　由美
日面の一枝せり出す冬木の芽　順
秋深し白寿の父の足軽く　厚子
冬夕焼波打ち際の星の砂　八重子

（見学歓迎　第2木曜日午後　9階第5講義室）

公開講演会（冬）

放送大学・埼玉学習センター８階講堂　14時～16時

◆2月10日（日）
「芸術アンコール・シリーズ」　第４回
「歌い手の四方山話ー声楽家が見た音楽風景ー」
講師＝福井克明（声楽家・合唱指揮者）

◆2月16日（土）
「フェアウェル・シリーズ」　第５回
「錯体の化学は世紀を超えて」
講師＝永澤　明（放送大学埼玉学習センター客員教授）

「幸せなら　手をたたこう」
～名曲誕生秘話～
作詞者:木村利人氏
2018年10月、埼玉SCで「いのちを考える」の講演。NHK・BSのｽﾍﾟｼｬﾙ番組で名曲誕生秘話を放送。番組の録画DVDを8Fにて放映。是非ご高覧を！

サロンのご案内

◆1月6日（日）
ティータイム科学座談会
多目的室・14時～17時
講師＝永澤　明（放送大学埼玉学習センター客員教授）

◆1月9日（水）
サロンしぶや
第１講義室・14時～16時
「シェイクスピアを楽しむ」　第５回
『リア王』
講師＝渋谷治美（埼玉学習センター所長）

◆1月12日（土）
絵画サロンこざわ
第５講義室・13時～15時
「ドローイングとは何か。描くとはどういうことか」
講師＝小澤基弘（放送大学埼玉学習センター客員教授）

◆1月17日（木）
サロンしぶや
第６講義室・14時～16時
ー映画とクラシックー
「シューベルト歌曲集『冬の旅』」
講師＝渋谷治美（埼玉学習センター所長）

サークル案内

サークルおおみや

★1月7日（月）
「新年昼食会」

★2月24日（日）
「3月の総会準備作業」
埼玉ＳＣで13時～

W・W・M

★1月9日（水）10時～
器楽、第9、ボイストレーニング等

★1月16日（水）10時～13時半～茂木先生指導

★2月13日（水）
第9練習（福井克明氏）

朗読の会「こころ」

★1月11日、18日（金）
第３講義室９時半～17時

★2月8日、15日

健康体操研究会

★1月は休み

★2月5日、19日、26日
10時半～12時

熟年会

★勉強会
1月8日「ＡＩとシンギュラリティ」
2月13日「保健衛生行政よもやま話」

★パソコンクラブ
2月19日、26日（火）

★勉強会

★木曜名画座＝2月28日
「となりのトトロ」

江戸時代の古文書を読む会

1月5日（土）＝シーノ大宮、13日（日）＝埼玉ＳＣ、2月3日（日）＝シーノ大宮

編集後記

年に6回発行の学生新聞が60号となりました。創刊から10周年。皆さまのご協力のお陰と感謝申し上げます。次号からは新たな思いで次の10年へ向かいます。更なるご協力をお願いします。（冬）

高木慶子氏公開講演会

被災された方々に寄り添う
「予期せぬ災害と心の支援」

日時：2019年２月９日（土）１３時半～１６時
場所：放送大学埼玉学習センター８階講堂
講師：高木慶子氏（上智大学グリーフケア研究所特任所長）＝東日本大震災被災者の心の復興支援を継続
定　員：１５０名
参加費：５００円

主催：むぎの会
共催：埼玉ＣＳＣ交流会・放送大学埼玉同窓会
後援：放送大学埼玉学習センター